



教育関係者・事業者部門
《教育等関係者》

消費・安全局長賞

草津市立渋川小学校

(滋賀県) 活動期間 5年

「食べて守る琵琶湖の環境」 地域の人々と作る「滋賀の郷土料理博物館」

郷土料理の魅力を学び 地域の食文化を継承

総合的な学習の時間を核に、5年生が滋賀の郷土料理について学んでいます。

また、6年生は郷土料理の食材を生み出す琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業について学んでいます。

子供たちが郷土の食文化の魅力を伝えるため、「滋賀の郷土料理博物館」を開館したり、テレビ会議システムを使って他地域に紹介したりしています。



郷土料理博物館に知事を招いて説明する様子

大切なのは 子供たちの主体性！！

学校・地域・行政・専門機関・企業等が参画した環境教育の支援委員会を組織し、年間プログラムを検討するなど、町ぐるみで取組をサポートする体制を整え、子供たちの主体性（気づき・考え・行動する）を引き出しています。



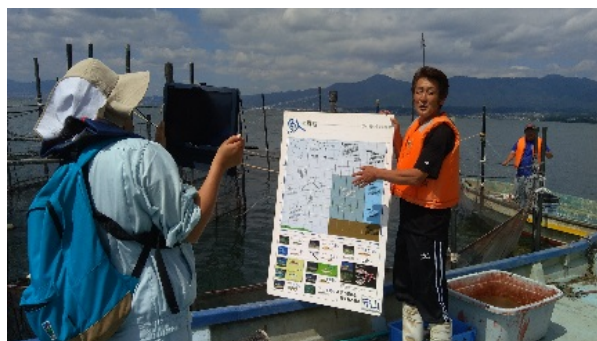
学校農園で郷土料理の食材となる野菜を栽培

教室に居ながら リアルタイムの体験

田畑や漁場と教室とをテレビ会議システムでつなぎ、年間20回を超える遠隔授業を行い、遠隔授業のあとには必ず調理して味わう体験活動を取り入れています。

例えば、漁船上から伝統漁法による水揚げの様子を生中継し、獲れたての魚を港でさばいて、当日のうちに学校に持ち帰り味わうなど。

回を重ねるごとに、感謝の念や伝統的な食文化への理解が深まっています。



生中継での授業



子供らは地域のさまざまな生産物や恵み、郷土の食文化と出会い、多くの人たちとのかかわりを広がっていました。

それは、子供たちの「主体的、対話的で深い」学びを実現し、故郷への愛情を育てる学びとなりました。

草津市立渋川小学校 校長 清水 康行